



日証金信託銀行社長
橋本 泰久

中央銀行透視の試み

折谷吉治著「中央銀行制度の経済学」

「新制度経済学から
のアプローチ」の副題
が付いている。中央銀
行に限らず、あらゆる
組織は社会的存在であ
り、伝統的な経済学だ
けで全貌をとらえる事
は不可能だ。

著者は中央銀行を論
ずるに当たり、近年注
目を集める新制度経済
学を縦横に駆使した透

視を試み、多面的な解
剖図を展開する。抑制
された筆致にも関わら
ずそこで示される分析
は知的刺激にあふれた
含意に富み驚嘆すべき
試みに成功している。

白川方明・前日銀総 中央銀行のガバナ
裁が冒頭推薦の辞で スを外交機関と対比し
「新鮮なフレイバーを つつ取引コスト経済学
もつ中央銀行論」と述 を適用して論じ、エー
べているように、金融 ジェンシー理論や公共
政策の経済分析に偏し 選択論を用いて中央銀
がちな中央銀行論に本 行の制度的側面を整理
した「中央銀行のパブ
リック・ガバナンス」
の章は本書の核心を成
すが、全章にわたり高
度な内容が平易な言葉
で書かれている。中央
銀行のみならず公的な
性格を帯びる組織のあ
り方に関心を寄せる方
々に広くお薦めする。
(学術出版会、税込7
560円)